

特別廣告

第一回公開講演會

來聽歡迎

■佛教と佛教藝術

京都帝國大學教授

松本文三郎氏

■五念門の研究

眞宗大谷大學教授

金子大榮氏

四月二十五日午後一時於眞宗大谷大學講堂

京都市室町頭眞宗大谷大學內

佛教研究會

合 掌 宗教及文藝之新權威

三 月 號	四 月 號
<p>卷頭言……………金子大榮</p> <p>人々人々の從屬……………倉田百三</p> <p>嘆きへの禮讃……………宮崎安右衛門</p> <p>翻譯藝術と文献學……………井上右近</p> <p>大學の大學普及に就て……………藤原猶雪</p> <p>(一大學中心主義)……………</p>	<p>なやみ……………曉鳥敏</p> <p>空觀の宗教……………金子大榮</p> <p>尼僧敎團の七相續者……………赤沼智善</p> <p>ドストエフスキーの描……………岩見護</p> <p>ける童魂の世界……………鈴木弘</p> <p>淳眞の世界(ケーベル博士に就て)……………</p>
<p>南州の陽明學……………安藤洲一</p> <p>慶しき我が世界……………藤井草宣</p> <p>牢獄の門……………左藤義詮</p> <p>わが子人の子……………七家</p> <p>水溫む……………九家</p> <p>沖野氏の「宿命」……………藤井草宣</p> <p>佛人(長篇小説)……………和田轟一</p> <p>神と惡魔(戯曲)……………岸本鬼史</p>	<p>超宿命思想の提唱……………成川靈雄</p> <p>遮詮されたる自己……………出雲路善尊</p> <p>長夜……………六家</p> <p>春雨……………十二家</p> <p>六號雜誌……………同家</p> <p>時論二則……………左藤義詮</p> <p>不死の概念(ロイス)……………上杉文鏡譯</p>

眞實に血肉化されたる研究、時潮の奥底を洞觀せる論議、魂の秘奥に參入露現せる藝術、内容愈々充實して、専心敎界の新聲文壇の權威たらんご力むる、若き我等の努力を見よ。

京都市室町頭大谷大學合掌社振替大阪一四三番

☐ 部一 錢拾貳 ☐ 稅五厘 ☐ 半稅年共 圓壹拾錢 ☐ 一稅年共 貳圓八拾錢

佐々木月樵先生編著

製本既成

大乘佛
教大系
華嚴教學

四六判クロース綴
實費貳圓
郵稅拾貳錢
總頁數五百六十頁

發行の趣旨。大乘佛教々々學は我が東洋民族の世界に誇るべき唯一のものなるに拘らず、其の研究は極めて少數の専門家に限られ、哲學文藝美術等の一般學界にだに省られざる者多し、泰西の學者も、早くもまた眼を此につけ、其の新研究を企つに至る。我教界亦之に刺戟せられ、今や大乘研究の氣運勃興せんとす。雖も、尙大海に物を探くるの嘆なきを得ず。因て著者は十數年間潜心研究し整理したる『大乘佛教々々學』を發表して、斯界の要求に應せんとし、今其第一輯として『華嚴教學』を刊行することゝなれり。

本書の價值。華嚴の教學は華嚴經を中心として展開したる佛教々々學の精華にして、大乘教學の始祖龍樹は之に據つて『無生』の宗旨を唱道し、支那の賢首は本經に基きて『無盡』の教學を大成したり。我が奈良朝の文化、鎌倉佛教の精髓、共に本經に負ふ所甚だ多し。然れば大乘佛教々々學を知らんとする者は、勿論、我東洋文化殊に我奈良興倉朝文化の淵源を知らんと欲する者は、先づ華嚴の教學より入るを順序とす。これ本書を第一輯として刊行したる所以也。

本書の内容と其特色。古來我教界の研究者は専ら訓詁を重んじたりしが、近時又徒らに概論に傾き過ぐる嫌あり。二者共に其の眞髓を離るゝの憾なしとせず。本書は其何れにも依らず、先づ、一部中前編は正さるし、著者の批判的、嚴密論にして、何人も之によつて、その精要に達すると共に、我國佛教文化の源泉となりし所以をも知るべし。後編は更にその人をして直ちにその代表的原典に參入せしむべく、華嚴學の始祖賢首の代表的著作數部を藏む。何れも諸本を校訂し、殊に改節、切段、句讀、反點等に充全の注意を拂ひあれ

ば、難解の文も何人にも讀み易し。深遠廣大なる華嚴學の精要と、其代表的原典三十餘卷は、この一部二編のうち、攝盡することを得たり。

發行所
發賣元

東京日本橋區蠣殻町一ノ三
東京巢鴨町一〇七九
振替東京三八七四九

松谷獎學會
至心書房

心の花

第 四 十 二 卷 四 月 第 四 號

■萬葉集ぬきは
■シリンの花
■歌らしい歌
■冬道全集を繙て
■明治六歌仙の一人
■時代の力と天分
■木下利玄氏へ
■紅玉雜感

佐々木 信綱
永田 龍雄
桑木 嚴翼
谷本 梨庵
志田 義秀
武井 大助
窪田 空穂
人見 少華

■西片町より
■不思議な戦き
■紐育より
■わが影
■弱き性
■三月の曙會
■三州會詠草
■路（該點）

佐々木 雪子
安田 董子
江崎しづ子
五島美代子
杉山 律子
今田十五郎
木下利玄選

■三つのチョコレート

石井衣子

■冬ごもり
■病よし
■新羅懷古
■雪ふれば
■殘雪
■寒雀
■足病みて
■倉普請

相馬 御風
牧野 英一
名越那河次郎
鵜木 保
前田福太郎
永田 龍雄
須藤泰一郎
鈴木 義雄

■宿直室
■薄むらさき
■母屋の灯
■影
■今日此頃
■奈多の濱
■母
■沈黙

鷺見 秋峰
大河内 國子
栗原 潔子
門野 珠子
岩田まさ子
古田とめ子
山川 京子
山口たつ子

一部金拾半壹六錢
參錢年圓拾
振替東京四三〇〇番
竹柏會出版部
日本橋區本石町一ノ一
電話本局五七一〇番

親 鸞 と 祖 國

— 目 要 號 月 四 —

■ 山鹿素行の武歌

井上右近

■ 倫理的刮眼

危險思想發生事實について

三井甲之

■ 新發見の親鸞聖教

彌陀如來名號德

橋川正

■ 親鸞聖人筆太子和讃

(卷頭玻璃版)

■ 研究と批判

白石哲二

■ 河上博士の書簡一通剖検

木村卯之

■ アナーキズムの追究的批判

大久保良忠

■ 堺利彦氏譯の

唯物史觀解説と集無產者

橋川正

對外祖國主義 對內民衆主義

プロパガンダ

京都市下珠數屋町 護法館

東京(替振) 四一〇 五九二 九二〇

新刷容内
術藝教宗

光

礙

無

界教宗
號題改

◆ 誌雜藝文想思的教宗 ◆

▽目次 (創刊號)

□ 無礙光 友松圓諦

□ 滅びざるものへの還元 友松圓諦

□ 惱める風景 藏原伸二郎

□ 眞光明抄 中村未外

□ 希念生活の基調 三井諦心

□ 御堂は高し 伊藤松里

□ 愛宕山 武藤善友

□ 蓮華色比丘尼 (脚本) 眞野正順

□ 幻影より實在へ 星誘諦

□ 浄土教と社會事業 長谷川冬民

△ 新批評欄 晶史、寒泉

定價 一部 參拾錢 郵稅 壹錢五厘 (半ケ年分壹圓八拾錢 一ケ年分參圓六拾錢)

◎ 發行所 東京府 東三九社 誌雜界教宗 振九 三三 京三 ◎

毎月一回

一日發行

佛國

第三卷一二三號目次

一部拾五錢

半年前金九拾錢

一年前金壹圓八拾錢

□樹下山上の三大法輪(二回)……………佐々木月樵

□殿堂について……………山邊習學

□鸞師の社會觀……………金子大榮

□私信……………倉田百三

□受難のこゝろ・自畫像現實化と純分化……………梅原眞隆

□ある日の午後……………曉鳥敏

□若い哲學者の印象・煩惱の林に遊んで神通を現するまで……………源哲勝

□生の望みと死の讃仰……………正親英

□懺悔と禮拜……………山田契誠

□予が機の深信……………藤井草宣

□人間の嘆きを基調として……………藤枝地籟

□生ける死骸……………野上靜麿

□歌と詩……………河崎茂・飯尾徹

□ツルゲニエフの作品の味……………松山亮

□雜記消息……………同人

歷史と地理

口 繪 ○足利尊氏書狀(稻荷神社藏)・○和泉禪寂寺址出土花瓦

□軍事地理上より見たる英吉利

□日支貿易港としての寧波港

□新井白石の政治思想と王號復行問題(中)

□地名「クマ」・「コマ」の私考

□十八世紀迄の歐洲海軍發達の梗概(下ノ一)

□明治時代の思想界(下)

□トリエント宗教會議前後の教會國家(上)

□都市の地理學的觀察(五)

□和泉國禪寂寺の古堂塔礎石

□北京の鼓樓と前門の夜市

□石山寺の巡禮札に就きて

□道廳編纂の(北海道史)を讀む

□歴史教授研究會質疑應答

會報

京都市丸太町堀川西入

發行所

星野書店

振替大阪四九四九一

毎月一回一日發行

一冊定價參拾八錢

送料 壹 錢

奈良女高師教授 西田與四郎

東京帝大史料編纂官 栢原昌三

八高教授文學士 栗田元次

奈良女高師教授文學士 春日政治

法學士 白石憲郎

文學士 清原貞雄

文學士 安藤俊雄

文學士 橋本辰彦

文學士 梅原末治

文學士 那波利貞

三高教授文學士 中村直勝

文學士 平山常太郎

文學士 小酒井儀三

梅原眞隆著

親鸞聖人研究

第一輯

三月卅一日發行
定價一部十八錢
郵税二錢

著者の小序

要

親鸞聖人の批判的精神

教信沙彌と愚禿親鸞

目

「愚禿悲歎述懷讃」と「無産者」

編輯餘録

毎月若くは隔月に刊行する小冊子である、著者の祖聖研究と思索と感想とを輯めてある、著者はこの小冊子に漸次自己の全思想を描出せんことを念願してゐる。

△購讀規定▽ 購讀は都て前金にて京都間之町二條上ル光澤寺内精神講話社（振替口座大阪壹四八四五番）へ

申込のこと△今年中には少くとも五冊は出す豫定であるから五冊前金壹圓宛おくらるゝを便宜とすべし（但し頁數は一定しないから定價も一定しない、大抵は第一輯の定價でゆくつもり、若し定價に増減を生ずればその都度前金を精算すべし）

會學文部學文學大國帝都京

雜

誌

文藝

月

刊

半年一年
分分
壹參
圓圓
八七
拾七
六貳
錢錢
(共料送)

號 月 四

每月定送
一價料
回一金
日參金
發拾壹
行錢錢

內容要目

◆デラ・ロビアの彫刻……………文學博士 濱田耕作

◆英國劇の起源……………文學士 木方康助

◆カーライルの文藝批評(一)……………文學士 石田憲次

◆アリストテレスの藝術論(二)……………文學博士 深田康算

◆周末に於ける地方の開發(十二)……………文學士 那波利貞

◆祝詞の制作と其時代(中)……………文學士 井手淳二郎

◆馬琴作と稱する洒落本に就て(承前、完)……………原田恭助

彙報

◆京都帝國大學文學部學會記事

◆寄贈雜誌

口繪

◆アンドレア・ロビヤ作陶製小兒浮彫

發行所 京都大町四九番 西川堀町四九番 入番 星野書店 文肇社

京阪文化史論

▷ 込見の圓三價定 頁百四版菊 ◁

近刊

本會昨年八月の候を以て開催したる京阪地方の文化に關する講演會は非常の盛況なりしが本會は各講師に囑して其講演速記の訂正を乞ひ四月頃臨時特別號として出版すべく目下其準備中なり希望の方接發行所へ申込まれなば特價を以て御送り申すべし

豫告

- | | |
|-----------------------|--------------|
| □ 京阪地方の神社…………… | 内藤文學博士…………… |
| □ 史蹟より見たる京阪地方の文化…………… | 三浦文學博士…………… |
| □ 京都に於ける西洋文明…………… | 新村文學博士…………… |
| □ 京阪の小説家…………… | 藤井文學博士…………… |
| □ 江戸時代外人の見たる京阪地方…………… | 長 學習院教授…………… |
| □ 平安朝時代の建築…………… | 天沼工學博士…………… |
| □ 平安時代の寺院と其人文的貢獻…………… | 西田京大助教授…………… |
| □ 京阪人の特性…………… | 魚澄文學士…………… |
| □ 平安時代の職業的新階級…………… | 松本六高教授…………… |
| □ 古文書分布より見たる京阪文化…………… | 黑板文學博士…………… |
| □ 遺物遺跡より見たる京阪地方…………… | 濱田文學博士…………… |
| □ 京都に現存する彫刻…………… | 植田文學士…………… |
| □ 平安時代に於ける淨土敎發達…………… | 蘭田佛敎大學長…………… |
| □ 古代に於ける近畿地方の工業…………… | 粟野主幹…………… |

星野書店

京都市大坂市
堀田四九番
西川堀田四九番
入番一

發行所

歷史と地理 藝と文 特別號

本號に限り定價七拾五錢送料金貳錢

元末の四大畫家……………文學博士	內藤虎次郎
白鳳天平の彫刻と萬葉の短歌……………文學士	和辻哲郎
鍋島窯の瓷器……………文學博士	吉澤義則
日本と希臘の彫刻……………文學博士	濱田耕作
桃山美術の背景……………文學博士	高柳光壽
西域佛教藝術と神獸鏡……………醫學博士	中山平太郎
日本彫刻の裝飾……………文學士	佐々木恒清
豐太閤に關する文書(一)……………文學士	中村直勝
太田川下流に於ける爭奪現象……………文學士	西龜正夫
都市の地理學的觀察(三)……………文學士	橋本辰彦
眞田信之の和歌……………文學士	春日政治
伊香保と榛名(三)……………文學士	遠藤金英
燕吳載筆錄(三)……………文學士	那波利貞

發行所 京都大坂市堀河四番 西文社 星野書店

佛敎大學叢書

第二編

佛敎大學敎授 鈴木法琛 著

眞宗學史

菊版裝幀優美
紙數三百五十頁
定價貳圓八拾錢
送料金拾貳錢

內容

- 第一編 宗學開展史
- 第一章 總論
 - 第二章 宗學創業時代の學說
 - 第三章 宗學成立期の學說
 - 第四章 學轍分裂期
- 第二編 異安心史
- 第一章 總論
 - 第二章 元祖法然上人門下の異安心
 - 第三章 宗祖聖人門下の異安心
 - 第四章 覺如存覺兩上人時代の異安心
 - 第五章 蓮如上人時代の異安心
 - 第六章 能化時代の異安心
 - 第七章 學轍分裂期の異安心
- 附錄 先哲小傳
- 西吟以下三十三項

佛敎大學學長 藺田宗惠 著

第一編

佛敎と歴史

定價金貳圓五拾錢 送料金拾貳錢

(再版出來)

佛敎大學敎授 湯次了榮 著

第三編

華嚴大系

目下印刷中
菊版裝幀優美 六百七十頁

發行所 京都大學佛敎部 西學六條 六條學部 佛敎學部 叢書 振替電話 大阪二一〇八四七